

宝塚市に暮らし、宝塚市で活動した**中畑艸人**や**元永定正**などの
宝塚市が所蔵する美術作品を一挙に紹介

市制70周年記念展 宝塚コレクション－宝塚市所蔵作品展－ 開催

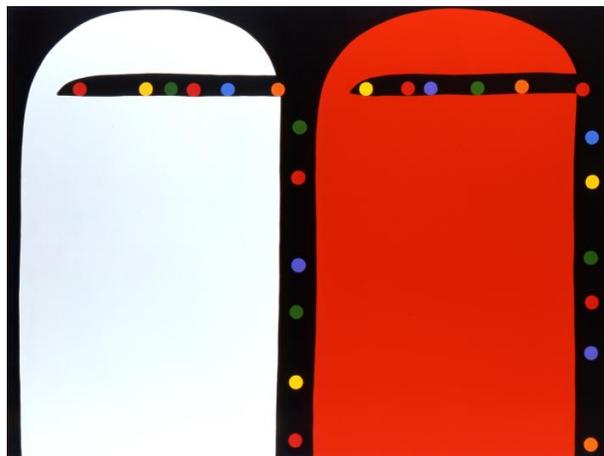
2024年7月20日（土）13:00～9月1日（日）

宝塚市立文化芸術センター（兵庫県宝塚市武庫川町7-64）

1954年4月1日に誕生した宝塚市は、2024年に市制70周年を迎えました。これを記念して、宝塚市立文化芸術センター（所在地：兵庫県宝塚市／館長：加藤義夫）は、宝塚市が所蔵する美術作品を紹介する展覧会「市制70周年記念展 宝塚コレクション－宝塚市所蔵作品展－」を、7月20日（土）から9月1日（日）の会期で開催します。（※7月20日（土）のみ13:00オープン）



中畑艸人「惨!!'95一月一七日」
油彩・キャンバス、130.3×194cm、1995年



元永定正「いろだまよこしろあか」
アクリル・キャンバス、194×259.1cm、2001年

◆キャッチコピーは、きて！みて！みんなの「たからもの」

本展は中畑艸人（なかはた・そうじん）や元永定正（もとなが・さだまさ）といった、宝塚市がご遺族等から寄贈を受けて所蔵する、宝塚市にゆかりのあるアーティストの美術作品を一挙に紹介することで、宝塚市の持つ文化的財産とその魅力を見つめ直し、愛着と誇りを育み、次世代に繋ぐ場となることを期待するものです。

また本展では、宝塚市内の文化財の公開活動、宝塚学検定、パブリックアートといった「市民と文化が繋がる場所」も併せてご紹介します。市民の「たからもの」でもある美術作品と、市の歴史や文化に触れる取り組みを交えながら、宝塚が育んできた文化とその展望をご覧ください。

《報道関係者お問い合わせ先》

宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センター公式WEBサイト
URL <https://takarazuka-arts-center.jp>



◀アクセス
二次元コード

開催概要

タイトル：市制70周年記念展 宝塚コレクション－宝塚市所蔵作品展－

会期：2024年7月20日（土）13:00～9月1日（日）

開館時間：10:00～18:00（最終入場は17:30まで） ※7月20日（土）のみ13:00オープン

休館日：毎週水曜日

会場：宝塚市立文化芸術センター 2階メインギャラリー（〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7-64）

観覧料：一般（高校生以上）1,000円

※中学生以下無料 ※障がい者手帳ご提示でご本人様、付添の方1名まで無料

割引制度：①「広報たからづか7月号」のご提示で200円割引

②市内在住または在勤であることを証明するもののご提示で200円割引

③第15回宝塚学検定の認定証のご提示で200円割引

WEBサイト：宝塚市立文化芸術センター

<https://takarazuka-arts-center.jp/>



◀アクセス
二次元コード

【主催】宝塚市立文化芸術センター（指定管理者：宝塚みらい創造ファクトリー）

【特別協力】モトナガ資料研究室

【協力】公益財団法人宝塚市文化財団、宝塚市立中央図書館、日本中央競馬会 阪神競馬場、和歌山市立博物館

【後援】神戸新聞社

【助成】公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団

一般問合せ先：宝塚市立文化芸術センター 電話:0797-62-6800

見どころ

（1）宝塚市が所蔵する絵画コレクションが集まる貴重な機会

ご遺族等から寄贈を受け、宝塚市の所蔵品として保存されてきた美術作品は、これまでまとまって展示することが叶いませんでした。本展では宝塚市の市制70周年を記念して、市民の財産でもある所蔵品のなかから美術作品約70件を一挙に紹介します。

（2）元永定正の「いろだま」シリーズを宝塚市内で10年ぶりに展示

2001年から宝塚市大使を務めた元永定正の代表作「いろだま」シリーズを、宝塚市内で10年ぶりに展示。展示室には作品に描かれた「いろだま」が画面を飛び出し、床にあふれ出すインスタレーション作品が広がります。

（3）「馬の画伯」中畑艸人の市所蔵作品を宝塚市内で8年ぶりに展示

宝塚市が所蔵する作品13件のうち、市役所や市立病院で展示されているものを除いた8件が8年ぶりに勢揃いします。躍動感あふれる筆致と描写は必見です。

（4）宝塚市が育んできた歴史や文化を知る展示も

会場には「市民と文化が繋がる場所」をテーマにしたコーナーを設置。文化財の公開活動や宝塚学検定、パブリックアートなど、「文化を守り・普及する活動」を通して市の歴史や文化に触れる取り組みをご紹介します。

（5）夏休み、子ども向けイベントも開催

会期はちょうど夏休み期間中！子ども向けの関連イベントを開催します。ギャラリーツアーやワークシートを通じて、子どもたちが同市の文化やアーティスト、そして自分たちの「たからもの」である美術作品を知るきっかけを提供します。美術展だからと気を張らず、世代を選ばずに楽しめる展示を目指しています。

展示内容と出品作家プロフィール

中畑艸人（なかはた・そうじん／1912～1999）

和歌山県出身の洋画家。初期は水彩画を得意とし、和歌山県師範学校を卒業後、教鞭をとるかたわら、帝展への入選を果たす。在職中に洋画家・裕伊之助（はざま・いのすけ）と交友し、1938年に教職を辞して上京。裕に師事して油彩画に転向し、一水会を中心に活躍した。

1946年に第2次世界大戦への出征から復員するも、戦禍で東京と和歌山の住居を失ったため、関西を拠点に据えて活動を再開。1950年代には地方競馬で魅了された馬の姿を描くようになる。その躍動美は国内外で評価され、1969年の「Horse Artists of The World」（イギリス）に日本人唯一の招待出品を果たした。また渡欧を重ね、ギリシャ・スペイン・イタリアにも外遊した。

1973年に宝塚市へと転居。作品集の発刊や一水会の運営委員を務めるなど、精力的に活動するが、1995年に阪神・淡路大震災で被災する。以降は体調を崩し、1999年に死去した。中畑は自らを「うまかき」と称すとおり、徹底した写生に基づく確かな技量をもって駿馬を描く「馬の画伯」として知られているが、凶鑑的な表現に留まらずに情感豊かな作品世界を構成する点でも評価された。特に象徴主義的なアプローチをもって画面に社会性を織り込む作品が多く、画業後期には神話への関心と併せてこの傾向がよく表れている。

<主な展示作品>



中畑艸人「惨!!'95一月一七日」
油彩・キャンバス、130.3×194cm、1995年



中畑艸人「グビオの聖金曜日」
油彩・キャンバス、97×130.3cm、1967年

○「惨!!'95一月一七日」について

阪神・淡路大震災をきっかけに描かれた作品。中畑自身も宝塚市内で被災し、その際に感じた恐怖感や絶望感を馬に託して描く。中畑が生涯を通じてモチーフとした馬の描写、社会への関心の表出、神話への傾倒からくる抒情性のすべてが結実した、画業後期の大作。

展示内容と出品作家プロフィール

元永定正（もとなが・さだまさ／1922～2011）

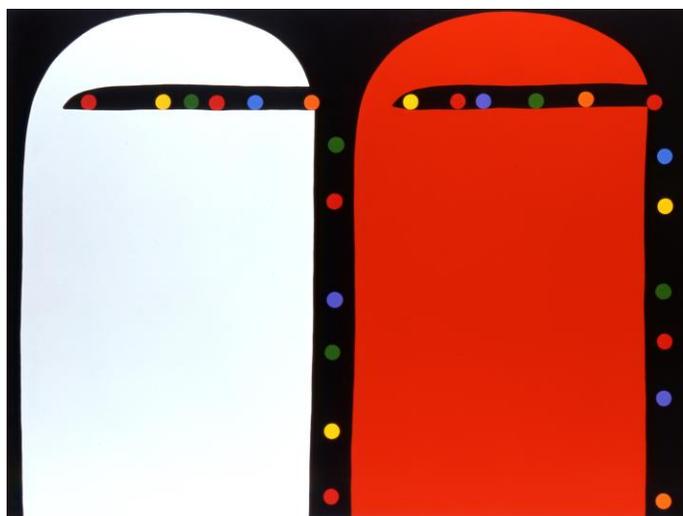
三重県出身の現代美術家。地元の商業学校（現高校）を卒業後に大阪でさまざまな職に就くも、第2次世界大戦の終戦後は故郷の伊賀に戻り漫画家を目指す。その後は画家・濱邊萬吉（はまべ・まんきち）と出会い、洋画家に転向。やがて母が没すると弟を頼って神戸に転居し、西宮美術教室に通って研鑽を積んだ。

1953年、第6回芦屋市展に「黄色の裸婦」を出品し、ホルベイン賞を受賞。同展の出品作に触発されて抽象画へと転向し、1955年に吉原治良の誘いで具体美術協会に参加。同年、宝塚市逆瀬川に転居し1年ほどを過ごす。その後1960年には本格的に宝塚市に居を移し、具体美術協会（1971年退会）の中心的存在として、関西を拠点に精力的に制作活動を展開した。

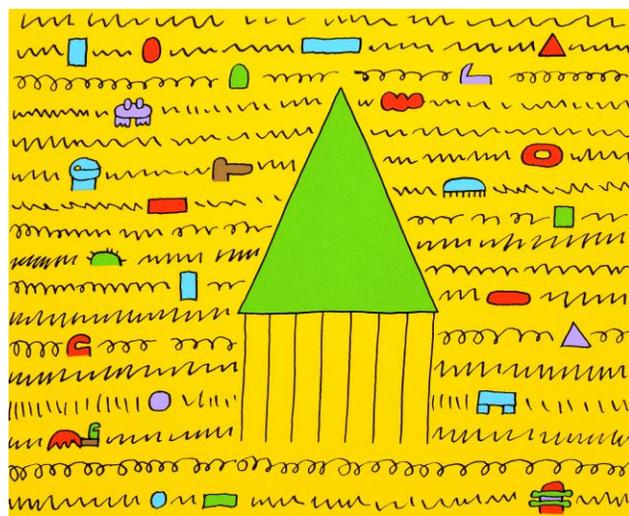
1958年からは、たらし込み技法を手掛かりにした絵具を流した作品を制作。さらに1966年にジャパン・ソサエティーの招へいにより渡米し、ニューヨーク滞在中にエアブラシやアクリル絵具に出会い新境地を開いた。その活動は国内外で評価され、1988年にフランス政府から芸術文化勲章「シュヴァリエ」を、そして1991年には紫綬褒章を受章。1993年には第45回ヴェネツィア・ビエンナーレ企画展示「東方への道」に具体美術協会のメンバーとして参加した。

宝塚市では、宝塚美術協会会員や宝塚市展審査員として市の文化振興に努め、2001年には宝塚市大使に就任。色鮮やかでユニークなモチーフを描く抽象画や、絵本の分野などでも知られている。

<主な展示作品>



元永定正「いろだまよこしろあか」
アクリル・キャンバス、194×259.1cm、2001年



元永定正「さんかくとかたちたち」
シルクスクリーン、22×27cm、2010年

○「いろだま」シリーズについて

絵画と無数の「いろだま」から構成されるインスタレーション作品。テーマとなる「いろだま」は、元永が抽象画に転向してから度々描いてきたモチーフで、ころころと転がる愛らしい姿は、絵本『ころころころ』（1984年、福音館書店）などでも親しまれている。本シリーズはカラフルな「いろだま」が画面を飛び出し、心躍るような空間を作り出すインスタレーションの傑作。元永定正の代表作のひとつでもあり、宝塚市内では10年ぶりの展示となる。

■ 市民と文化が繋がる場所【コーナー展示】

- ・宝塚市立中央図書館市史資料室の活動紹介
…国登録有形文化財に指定されている旧松本邸（宝塚市桜ガ丘）の公開や、宝塚市立中央図書館内にある聖光文庫での展示など、宝塚市内の文化財の公開をはじめとした市史資料室の活動について幅広くご紹介します。
- ・宝塚市文化財団の活動紹介
…自然、歴史、文化芸術、まちなみなど様々な魅力にあふれる宝塚市。宝塚市文化財団では、宝塚のまちなみの魅力を再発見し、まちへの愛着を深めてもらうことを目的に、毎年「宝塚学検定」を実施しています。ここでは検定を通じた宝塚市文化財団の活動をご紹介します。
- ・宝塚市内のパブリックアートの紹介
…宝塚市国際観光協会ホームページで紹介されている「発見アートスポット！宝塚100選」から、当センター館長が厳選した、宝塚市立文化芸術センターから歩いて行ける距離にあるパブリックアートを紹介します。

関連イベント

■ パートナーズサロン「宝塚の地が育んできた文化」

宝塚を中心に各界で活動する3人が、アーティスト／アートに携わる市民／研究者といったそれぞれの視点から、宝塚に息づく文化とその未来について語り合います。市制70周年を迎えたいま、過去から未来へと繋ぐ「宝塚の文化の力」を一緒に思い描いてみませんか？

開催日時：2024年8月3日（土）14:00～15:30

開催場所：宝塚市立文化芸術センター 1階キューブホール

定員：40名

登壇者：中辻悦子（美術家）

秋山文子（革工芸作家・公益財団法人宝塚市文化財団 理事長）

谷口義子（神戸学院大学非常勤講師、宝塚学検定委員）

司会進行：加藤義夫（宝塚市立文化芸術センター 館長）

※参加には2024年度パートナーカードのご提示が必要です（当日入会可、年会費2,500円）。

※事前申込制（公式webサイトの専用フォームにて、7月5日（金）10:00より受付開始）

■ キュレーターズトーク

展示会場内で宝塚市の所蔵作品について解説を行います。

どんな経緯でこれらの作品が所蔵されたのか？作品の解説とともにご紹介します。

開催日時：2024年8月17日（土）①11:00～ ②14:00～（各回約30分）

開催場所：宝塚市立文化芸術センター 2階メインギャラリー内

解説者：西岡美加（宝塚市文化政策課 学芸員）

※参加には当日の展示会入場券、または2024年度パートナーカードが必要です。

※事前申込不要。展示会入場者はどなたでもご参加いただけます。

■わくわく！いっしょにみるDAY！

キュレーターと一緒に宝塚の「たからもの」を探しに行こう！
お子様を対象とした解説付きのギャラリートัวร์です。

開催日時：2024年7月27日（土）①14:00～②15:00～／28日（日）①14:00～（各回約20分）

開催場所：宝塚市立文化芸術センター 2階メインギャラリー内

対象：小学生以下のお客様

定員：各回15名

料金：参加無料

※展覧会場受付で参加券をお渡しします。

※未就学のお子様に参加される場合は、付添の方も一緒にご参加ください。

※未就学のお子様とは手を繋いでご参加ください。

※高校生以上のお客様は、当日の展覧会入場券または2024年度パートナーカードが必要です。

■わくわく！しゅくだいワークシート！

作品解説や作品をじっくりみるためのクイズが付いた特別なワークシートを、会期中、会場内で配布します。宝塚市の「たからもの」について詳しくなれる！夏休みの宿題にもぴったりのワークシートです。

配布場所：宝塚市立文化芸術センター 2階メインギャラリー内

※数に限りがありますので、お渡しできない場合があります。



宝塚学検定に挑戦しよう！

第16回宝塚学検定（2025年3月20日（木・祝）実施）の加点対象企画があります。

開館5年目を迎えた 宝塚市立文化芸術センターのご紹介

◆美しい自然とアートが楽しめる、宝塚の“アートの聖地”

2020（令和2）年8月にグランドオープンした、アーツセンター。
文化芸術に親しむセンターエリアと、自然との触れ合いが楽しめる庭園エリアからなり、なめらかな印象のルーフィンは「こんもりとした丘」をイメージしています。
近くには手塚治虫記念館、宝塚文化創造館もあり、宝塚の文化芸術の中心地にある施設です。かつての宝塚ファミリーランド、宝塚ガーデンフィールズの跡地に生まれた、市民に愛される憩いの場です。



<主なみどころ>

■1階（センターエリア）

1階にはセレモニーやイベントにも使える「キューブホール」と、可動壁でレイアウトを変更できる「サブギャラリー」、多目的に利用できるオープンスペースの「アトリエ」や「ホワイエ」があります。

さらに「ライブラリー」には、展覧会や文化芸術・植物・生物、宝塚に関する図書を多数配架。

子どもが楽しめる絵本がそろったスペースもあり、多機能トイレや授乳室も完備しています。

「ショップ」では、展覧会に合わせたグッズや、アーティストグッズなどを取り扱っています。



■2階（センターエリア）

広々とした「メインギャラリー」があり、幅広い世代の人々を対象とした展覧会を開催しています。



■屋上（センターエリア）

建物上部の「屋上庭園」は原っぱの丘をイメージ。360°見渡せる開放的な空間で、屋根付きのベンチもある、人びとの憩いの場です。ミソハギやホタルブクロなどの多年草、秋の七草のフジバカマやオミナエシなど、日本各地の草花が見られます。



■みんなの広場（庭園エリア）

施設の前に広がる「みんなの広場」は、広々とした芝生広場。不定期でイベントやマーケットなどを開催しています。のんびりと日向ぼっこをしたり、散策したりと自由に気分よく過ごせるスペースです。



■庭園（庭園エリア）

小川が流れる「メインガーデン」には、同施設のオープンを記念して横浜市から寄贈されたバラをはじめ、宝塚市の市花であるスミレや、香りのよいロイヤルジャスミンなど季節の花々が咲き誇ります。

さらに宝塚市の名誉市民・手塚治虫が生み出したキャラクターが庭園に潜み、訪れる人の心を和ませてくれます。

メインガーデン内にある休憩所「ガーデンハウス」では、休憩利用のほかにセンター主催の講座も開催しています。



<宝塚市立文化芸術センター 施設データ>

所在地：〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7-64

TEL：0797-62-6800

休館日：水曜日（祝日は開館）

※年末年始（12月29日～1月3日）、その他設備点検などにより臨時休館する場合があります。

開館時間：センター・屋上庭園：10：00～18：00

メインガーデン：10：00～17：00

入館は基本無料。展覧会や催しによっては、一部会場が有料となります。

《報道関係者お問い合わせ先》

宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センター公式WEBサイト
URL <https://takarazuka-arts-center.jp>



◀アクセス
二次元コード